

令和6年度 第5回 白鳥中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年11月28日(木) 18:30~19:30

2 場 所 会議室

3 あいさつ(学校長、委員長)

委員長: 寒くなってきた。日が短くなり帰りが遅い生徒もいる。自転車のライトは自動点灯することがほとんどだが、家用の自転車でも無灯の場合もある。交通事故に気をつけるよう指導を。運転する側も注意する必要がある。

学校長: 文化祭後も落ち着いて勉強や部活に取り組んでいる。暗くなってきたので17:00完全下校。26日(火)の人権講演会でパラアスリートの方のお話を聞いた。校区人権フォーラムでは生徒会や室長が「安心して過ごしやすいクラスにするためには」について話し合い意見を交換した。

4 協議内容

(1) 特別支援教育・個別の支援について

子どもの状況や様子に応じた支援を行っている。支援体制として特別支援学級、通級指導がある。通常学級にも支援の必要な生徒が多いので、個別の声かけ、板書の工夫、見通しの明記、校内委員会での情報共有、「すずっこファイル」を活用した手だてや支援を行っている。

委員より:「すずっこファイル」は、高校入学後の支援の手だてに有効。途切れのない支援のため、「すずっこファイル」の作成を前向きに捉えて、高校に引き継いでもらうとありがたい。

(2) 不登校を生まない取り組みについて

支援体制として、教室に行きづらい時に利用する「学習ルーム」がある。学習ルームは3・4限目の開室で、支援体制を組んで複数の教員が担当する。その子の状況に応じて、テストの受験や進路指導を行っている。オンライン授業を受けることもできる。不登校を未然に防ぐため、学級づくりや教員との信頼関係づくり、仲間づくり、授業改善に取り組んでいる。

委員より:保護者はどう思っているのか。保護者が不登校を容認していることが、学校に行かなくてもよいという考えを助長しているのではないかと。←学校に行くことがゴールではなく、社会的自立を目指して支援をしていく。自分から動いた生徒もいる。

委員より:家庭の考え方にもよるが、不登校の子の保護者は、周りの子は登校している中で、自分の子が行かない状況について不安で焦ったり困ったりしている。そういう時にどこに相談していいのかわからないこともある。←子どもに寄り添って、支援に結び付くような手だてに取り組むとともに、新たな不登校を生まない学校づくりを目指していく。

(3) 支援課より

現在、鈴鹿市内で10校、校内支援教室を設置している。別室があることで居場所づくり、登校のハードルを低くしている。いろいろなことをやっているが、全国的にも不登校は増加している。部活動の地域移行にもあるように、地域で子どもたちを育てていくことが大切。学校関係者評価にも忌憚のない意見を書いてほしい。

(4) その他 次回 1月30日(木)18:30(会議室) 学校関係者評価について